

## 第 1 回「初期日本語教育の考え方・対話活動と教材理解」 2020 年 9 月 4 日

### ふりかえりシート まとめ

【参加者】 23 人 ※スタッフ 4 人（県多文化共生課 2 人、県国際交流協会協会 2 人）を含まない。  
 （内訳）日本語支援者 16 人（磐田市関係 5 人、菊川市関係 10 人、その他 1 人）  
 国際交流協会スタッフ 3 人（磐田国際交流協会 1 人、袋井国際交流協会 2 人）  
 行政職員 4 人（磐田市 1 人、菊川市 1 人、牧之原市 1 人、袋井市 1 人）

【回収数】 21 枚 ※日本語支援者の内、2 人が未提出（早退等のため）

#### 【1】講座の内容はいかがでしたか。

	よかった 5	4	3	2	よくなかった 1
〈集計〉	13 人	8 人	0 人	0 人	0 人

#### 〈理由〉

- ・「やさしい日本語」は、やはり難しいと改めて実感しました。
- ・グループワークなどが多く、実際にやる事で理解できた。
- ・地域の日本語教室について感じていた疑問、違和感を解決や理解ができました。
- ・先生の話はズームでもすごく聞きやすかった。もっと聞きたいと思いました。
- ・進行のステップが分かったような気がする。生かしていきたい。
- ・地域の日本語教室の大切さが理解できました。
- ・地域日本語教室のあり方についてよく理解できる内容だった。
- ・教室活動のあり方を確認することができた。教材の使い方を知ることができた。
- ・教室の活動に詳しくない自分でも日本語教室の活動と教室で行っていくことがわかった。
- ・他の地区からの参加者と学べたこと。日本語教室について学校と違うことをしっかり認識できたこと。
- ・テレワークが時々中断したこと。
- ・途中で ZOOM が切れてしまったことが残念でした。

#### 【2】内容はわかりやすかったですか。

	わかりやすかった 5	4	3	2	わかりにくかった 1
〈集計〉	10 人	9 人	2 人	0 人	0 人

#### 〈理由〉

- ・役に立つ資料が多かった。
- ・テキストの使い方がよくわかりました。

- ・ワークをして体感すること、言葉を発してはいけないというのがポイントでした。
- ・米勢先生のお話は、まとまっていてわかりやすいです。
- ・レジュメ、資料ともにスムーズに理解することができました。
- ・指導者、学習者等の立場になって体験できたことが良かった。
- ・具体的事例で説明してもらって分かりやすかった。
- ・実際のマニュアルやロールカードの体験など、具体的な内容でわかりやすかった。
- ・先生の話がゆっくりしていて聞きやすかった。資料と話のバランスが良く、進行に遅れを取ることなく受講できた。
- ・お話のテンポがゆっくりでよかった。
- ・ロールプレイを始めるのに時間がかかってしまったので、もう少しスムーズに入りこめたら良かった。
- ・内容はわかりやすかったのですが、オンラインに慣れていないので、自分が集中できないところがありました。

## ●気づいたこと、感じたこと

### 〈磐田市関係者〉

- ・教室活動に必要なのは、対話と協働であるということを再度確認できました。これからの教室で、このことを念頭に置いて参加していきたいと思います。(渥美久美子：(一社) 磐田国際交流協会)
- ・普段の教室活動の疑問点が解消した。(澤野孝光：(一社) 磐田国際交流協会)
- ・日本語が分からない人でもいろいろな工夫をすれば楽しい活動になることが改めて知ることができた。体系的に理解し、実践してみることが大切だと感じた。わかりやすい説明ありがとうございました。(藤村克英：(一社) 磐田国際交流協会)
- ・実際にグループワークをする事で学習者の気持ちが理解できました。言葉を話せないということは、こんなにもストレスがあるんだなと気づきました。今回の講座を受けるにあたり、他の市の方やボランティア、指導者の方と情報交換ができたので、磐田市、菊川市の合同で行うことはとてもよい結果になったと思いました。今後、この講座を受けて、自分がどのように成長できるか、吸収できるか楽しみです。(松浦祐子：(一社) 磐田国際交流協会)
- ・学習者の立場を体感できました。(村井智和：磐田市地域づくり応援課)
- ・対面での講座だと、やはり休憩時間などのちょっとした合間に情報交換もできていいなと思いました。教材(ふりかえりシート)はとてもわかりやすく、使いやすそうだと感じました。こういったものがあらかじめあれば、毎回の講師の準備の負担が減るな、と思いました。いろいろな教室で、共通で使えるものを増やしたい。毎回先生のお話を聞くたびに、自分の理解がちょっとずつ深まっていく感じがします。ありがとうございました。(川添裕子：(一社) 磐田国際交流協会)

### 〈菊川市関係者〉

- ・オンラインで米勢先生が現場に居るような講義であった。県多文化共生課の資料で県の推進方針がよく理解できた。グループ分けで、ロールプレイなどが出来たことは良かった。参加者は既に日本語教育のベテランが多かったなので、理解は早かったようです。(太田光輝：菊川市国際交流協会)
- ・学習者の立場になった時、伝えてくれる内容をキャッチするときのむずかしさ。ジェスチャ

一、表情などたくさんの方で伝えてくれるとうれしい。(太田理恵)

・やはり、ことばは実際に使ってみることで身につくのだと改めて感じました。学習者にとって、どうしたらより理解できるのか、どうしたら発話を促すことができるのかと常に考え、(生活者としての)外国人の方が日本語をもっと学びたいと思える環境(教材)づくりがとても大切だと感じました。(菅野真紀：虹の架け橋菊川小笠教室)

・地域の日本語教室での課題ははっきりしているので、今回の事業を通して自分自身の理解を深め、地域差や問題点が少しずつでも解消できる社会になるように貢献したいと感じました。

(坂部果歩：虹の架け橋菊川小笠教室)

・日本語を使わずにコミュニケーションすることの難しさがよくわかりました。それから、最初にお手本をジェスチャーなどで示して、自分のこと等を教えてから、外国人学習者にやってもらうという方法は、菊川市国際交流協会の日本語教室でもすぐ使っていくつもりです。ありがとうございました。(鈴木耕二：菊川市国際交流協会)

・地域日本語教室での初期学習者との信頼を培う活動として、とても効果的だと感じました。

(高山晃：袋井国際交流協会)

・ボランティアの学習支援活動の中で、交流や対話を大切にしているつもりだったが、自分がまだまだ従来の教授法にとらわれ、「教える」意識が強いことを感じました。学習者さんが、自分の言いたいことを伝えられる(伝えたいと思える)活動作りを考えていきたいと思います。母語話者が発話モデルになる、ということの意味がわかりました。(本多純代：袋井国際交流協会)

・初期支援ということからみると、生活者も子どもと同じで、はじめは身ぶり、手ぶり、絵のフル活用だと知り、安心しました。相手に伝える、伝わる難しさは理解しているつもりでしたが、学習者の立場を体験してみると、現在指導している子たちもこんなに苦しいんだと思いました。

(望月香：虹の架け橋菊川小笠教室)

・ズームでの講義でも、ききやすくよかったです。もう少し先生の話を知りたいと思いました。実際に日本語を使用してはいけないロールプレイは、外国の方の気持ちがわかり、今後伝え方に工夫していこうと思いました。(山田祥子：虹の架け橋菊川小笠教室)

・ワークショップを通して、言葉がわからない時に話すことの難しさ、また同じように言葉がわからない学習者が他にもいることの心強さを感じた。(松下愛理：菊川市地域支援課)

### 〈その他、R3モデル候補市関係者〉

・初心者・日本語がわからない人への対応を学習し、改めて考えさせられました。「わからない」はとても「大切なポイント」としたいと思います。簡単なことでも、もう一度、ああそうだったと気づきました。ありがとうございました。(鷺坂京子：ソヒゾ・デ・クリアンサ)

・何を話す、何を伝える、思いを伝えるというコミュニケーションを通して日本語を身につけていく『対話型』。学習者に必要な言葉(情報)からの学習が有効である。(田中美紗子：牧之原市役所企画制作部情報交流課)

・他の市の参加者と交流しながら学べることは、すごく良い機会だと感じました。グループで話をしたことで、日本語教室でどんなことができるのか、色々な考えを聞くことができ、参考になりました。(宮澤迅登：袋井市国際課地域共生係)

・整理された内容をお伺いでき、運営する日本語教室に反映する為の参考になりました。すべて

参加者の役割と影響、また作用など一つ一つ丁寧にうけとめ環境作りをしていくことが大切だと感じました。(鈴木美智子：袋井国際交流協会)

・生活者としての日本人は生活者としての外国人との信頼関係を築くためには、お互いに協働できる場が必要です。(ウォン・スーニー：袋井国際交流協会)

## ●よくわからなかったこと、疑問に思ったこと

### 〈磐田市関係者〉

・意味交渉という学術用語が難しかった。なぜその活動をするのかに対する合理的説明がもっと必要だと思う。(澤野孝光：(一社) 磐田国際交流協会)

・教室の組み立て方が難しく感じました。(村井智和：磐田市地域づくり応援課)

### 〈菊川市関係者〉

・ロールプレイの意見と実施方法をもう少し時間をとって説明した方が、スムーズにいったと思う。11月に実践教室が始まるが、その準備は9月～10月の早い時期に具体化した方が良く考える。対象者を誰に(人数と人選)するかを考えておく。(太田光輝：菊川市国際交流協会)

・もうすこしまニュアルについてのお話を伺いたいと思いました。(菅野真紀：虹の架け橋菊川小笠教室)

・指導者と補助者、教室に参加するサポーターとの協力が重要になると思いますが、現状ボランティアの方が多い中、どこまで共通の認識をもって一つの教室を開催していくと出来るのかという点が気になります。(坂部果歩：虹の架け橋菊川小笠教室)

・この活動を地域交流協会への活動につなげるということと、地域交流協会の活動のあり方との考え方のギャップが理解できませんでした。①地域交流協会のすべての活動を変えていくべきなのか？②そうであれば、どのような方式にしていくのが良いのか？③現行の交流協会の活動のままでいいなら、どのようにつなげていったら良いのか？(高山晃：袋井国際交流協会)

・活動の時、はじめに各役割の立場を簡単に伝えられると、もう少しスムーズに活動できたのかも…と感じました。しかし、やってみて活動の意味がわかりました。(望月香：虹の架け橋菊川小笠教室)

・ロールプレイのやり方にとまどってしまった。(山田祥子：虹の架け橋菊川小笠教室)

### 〈その他、R3モデル候補市関係者〉

・特にありません。勉強になりました。(鷺坂京子：ソヒゾ・デ・クリアンサ)

・学習者を1回目にひきだすこと。その場に連れだすメリットをどのように示せるか、伝えられるか。(田中美紗子：牧之原市役所企画制作部情報交流課)

・「はじめての日本語教室」について、あっさり終わってしまったので、持ち帰ってすべてに目を通したいと思います。(宮澤迅登：袋井市国際課地域共生係)